

Dialog 05 Apologizing あやまる

Roles: Julie= J, Kei= K

Julie was late for the English club meeting she was supposed to come to.

J: I'm sorry I'm late!

K: What happened?

J: Oh, I took the wrong train. I'm so sorry.

K: That happens. But you could have called us.

J: I wanted to, but I didn't know the number.

K: Oh, I'm sorry! I should have told you the number.

J: It's not your fault. Anyway, I should have been more careful. I have to apologize to all of you. I have kept you waiting for half an hour.

K: That's all right. We had fun talking with each other.

J: I'm glad to hear that.

K: OK, then, let's get started.

ジュリーは来るはずだった英語クラブの集まりに遅れてしまいました。

ジ: 遅くなってごめんなさい!

ケ: どうしたの

ジ: ちがう電車に乗っちゃったの。ほんとうにごめんなさい。

ケ: そういうこともあるさ。でも電話をくれればよかったのに。

ジ: かけたかったんだけど、電話番号を知らなかったから。

ケ: ああ、ごめんよ! 電話番号を教えてあげとけばよかったね。

ジ: あなたのせいじゃないわ。どっちにしても、私がもっと気をつけていればよかったんだから。みんなにおわびを言わなくちゃ。

三十分も待たせちゃって。

ケ: 気にしないでいいよ。おしゃべりしていて楽しかったから。

ジ: それならよかった。

ケ: よし、じゃあ始めようか。

Target Expressions

—謝罪の表現—



謝罪する表現

I'm sorry! (ごめんなさい!)

I have to apologize to all of you.

(みんなにおわびを言わなくちゃ。)

おわびの気持ちを強調したい場合:

so, really, very, deeply などをつけて、

I'm so sorry. (ほんとうにごめんなさい。)

謝らなければならない理由を付け加えたい場合:

I'm so sorry I'm late.

(遅くなってごめんなさい。)

これは I am sorry that I am late. の簡略な形です。

Oh, I took the wrong train. I'm so sorry.

(ちがう電車に乗っちゃったの。ほんとうにごめんなさい。)



Kei's Advice

～なぜこう訳すの？

逐語訳

“happen”: 「(予期しないことが偶然) 起こる」という意味です。ここでは「何が起こったの?」と、遅くなった理由を聞いています。

そういったことは(予期せず偶然に)起こるものだから、心配しなくていいですよ、という意味です。

“could have + 過去分詞”: 「～することもできたのに(しなかった)」
過去に起こった事実に対して、事実と逆のことを想定した発言をする時に使います。

“I wanted to (call you).”の省略です。電話をかけようという気はあったと弁解しています。

“should have + 過去分詞”: 「～するべきだったのに(しなかった)」
過去に起こった事実に対して事実と逆のことを想定した発言をする時に使います。

“fault”: 「(過失の) 責任」という意味です。「(遅れたのは) あなたの責任ではない」「あなたのせいではない」

“apologize to + 人”: 「(人に) 謝る、わびる」

“have kept + 人 + ing”: 「人を～させ続ける」という意味です。相手を30分も待たせてしまったことを表現しています。

“for half an hour”: half は「半分」、hour は「1時間」ですから「1時間の半分」「30分間」となります。

ジ: 遅れてごめんなさい!

ケ: 何が起こりましたか?

ジ: ああ、私は違う電車に乗りました。本当にごめんなさい。

ケ: そういうことも起こります。でも君は僕達に電話をかけることだってできました。

ジ: 私はそうしたかったです、でも私は(電話)番号を知らなかったんです。

ケ: ああ、ごめんなさい! 僕は(電話)番号を君に伝えておくべきでした。

ジ: それはあなたの責任ではないです。私はもっと気をつけているべきでした。いずれにせよ、私はあなた方みんなに謝らなくてはなりません。私は30分間あなた方を待たせ続けました。

ケ: それは大丈夫です。僕達はお互いにおしゃべりして楽しかったです。

ジ: 私はそれを聞いてよかったです。

ケ: オーケー、じゃあ、始めましょう。

I have to apologize to all of you. I have kept you waiting for half an hour.

(みんなにおわびを言わなくちゃ。三十分も待たせちゃって。)

人の謝罪に答える表現

人の謝罪に対してその理由を尋ねたい時:

What happened? (どうしたの?)

謝罪を受け入れて相手を許す時:

That happens.

(そういうこともあるさ。)

It's not your fault.

(あなたのせいじゃないわ。)

That's all right.

(気にしないでいいよ。)

謝罪の気持ちを表すその他の表現

“should have + 過去分詞”

「～するべきだったのに(しなかった)」

I should have told you the number.

(電話番号を教えてあげとけばよかったね。)

電話番号を覚えておかなかったことを謝罪しています。

Anyway, I should have been more careful (どっちにしても、私がもっと気をつけていなかったんだから。)

自分の注意が足らなかったことを謝罪しています。



Target Expressions

—謝罪の表現—